

## デザイン学科

### キーワード

建築計画、建築設計、環境行動、改修、保育園、幼稚園、認定こども園、子ども、遊び、行動観察、心理的評価、アクションリサーチ



准教授 / 博士（工学）

藤田 大輔

Daisuke Fujita

### 主な研究と特徴

#### 「保育施設の建築計画に関する研究」

幼稚園、保育所、認定こども園などの保育施設を対象に行動および心理的側面から研究を進めている。行動観察調査では、保育施設全体の活動の流れを把握する断面調査、園児一人ひとりの詳細な動きを把握する追跡調査など、様々な手法を用いている。心理的側面では、事前に撮影した遊び場面写真に対して、園児に評価してもらう実験、キャプション評価法を用いた主体的な環境評価実験、箱庭手法を取り入れた模型評価実験など幅広く研究を行っている。また、学際領域を扱う建築計画学の特徴を活かし、近年では保育方針に合致した空間の使いこなしについて、保育現場にアドバイスすることもあり、園児やスタッフの行動を観察し、スタッフと意見交換をしながら、環境をつくり上げていくアクションリサーチの手法を用いた研究も進めている。

#### 「キャプション評価法を用いた物理的環境の評価」

キャプション評価法を用いた実験は、保育施設の物理的環境評価と街並みの評価で実施している。園児は文字が書けないため、保育施設における実験では実験者が園児一人ひとりに付き添い、ヒアリングを併用して実験を進めるなど実験手法の開発も行っている。また街並みに対しては、駅前中心部や観光地において、主に若者の物理的要素・風景に対する好き-嫌いと感じる対象とその理由について研究を重ねている。近年は福井県若狭町において、SNS投稿を意識した観光促進のための評価項目をピックアップするための研究に取り組んでいる。

#### 「人々の活動を想定した建築物・空間の設計」

専門である建築計画学、人間工学の知見を活かし、建築物や保育施設の園庭などの設計を進めている。建築種別としては、住宅、障がい者グループホーム、保育施設、宿泊施設（改修）、墓など多岐にわたる。利用者の活動を想定した細やかな設計提案が特徴である。また、設計者が検討を進めている設計案に対しても建築計画および人間工学の観点からアドバイスを実施している。



写真1. 設計した「かゅーぐ」における園児の活動風景



写真2. 若狭町における観光資源の発掘調査の場面



写真3. 設計したささべ認定こども園の外観

### 今後の展望

研究：就学前教育（幼稚園・保育園・認定こども園）の建築計画が研究の中心である。また、近年貧しくなっている遊び環境の再生を中心に、豊かなこども時代を過ごすための空間計画について考究することが私の使命であり、生涯にわたって継続して研究を進めていきたい。一方、研究視野拡大のため、様々な研究に取り組む予定である。近年は、商業施設、飲食店、町並み、コンバージョン（建築物の用途変更）に関する研究について行動および心理的側面からその在り方を明らかにする調査研究を進めている。いずれの研究でも、その成果が知的興味を刺激するユニークかつ楽しいテーマであることが前提ではあるが、社会的ニーズを鑑み、自己満足に終わらないよう努めたい。

設計：建築計画学の専門性を活かして設計活動を実践していることが特長であり、そのことが設計教育の質を向上させていると確信している。可能であれば、研究で得られた知見を踏まえ、様々なタイプの「子どもが過ごす場所」について設計に取り組むことを考えている。また、保育園園庭において、保護者と協働で園庭改善に取り組む活動の依頼が複数あり、学生も協働したモノづくり教育の場になることを想定している。

### 所属学会

一般社団法人 日本建築学会（平成8年から現在まで）

一般社団法人 日本保育学会（平成11年から現在まで）

公益社団法人 こども環境学会（平成17年から現在まで）

人間・環境学会（平成19年から現在まで）

### 主要論文・著書

藤田大輔・山崎俊裕：写真投影法を用いた園児の幼稚園各部空間・要素に対する認識・評価実験,日本建築学会技術報告集,pp.287-292, 2019.2  
藤田大輔・山崎俊裕：幼稚園各室・空間における保育活動の時間的特性について,日本建築学会計画系論文集,pp.203-208,2006.1

青木一実・藤田大輔：ささべ認定こども園（設計）,長野県松本市,2015.3 竣工

青木一実・藤田大輔：木もれ陽保育園（設計）,愛知県名古屋市,2012.9 竣工

仲綾子・藤田大輔（編著）：保育園・幼稚園・こども園の設計手法,学芸出版社,2019.7